



# SDGs達成へ、4高等教育機関 庄内の未来考える

オンラインでシンポ、連携

庄内地域4高等教育機関の連携による「知の拠点庄内シンポジウム」が12日、オンライン開催された。SDGs（持続可能な開発目標）……

標の達成に向け、研究者の発表を通じ、目指したい庄内地域の未来を考えた。4機関の研究者がそれぞれの取り組みを紹介。海洋プラスチックの問題に関し、慶応大先端生命科学研究所（先端研、鶴岡市）から特別研究生の菅原さくら

さん（酒田東高3年）、同研究所のガリポン・ジョゼフィーヌ特任助教が海洋微生物の可能性を伝えた。

菅原さんは土壌細菌に関する先行研究を基に、プラスチックを分解する性質のある海洋微生物がいないか調査した。調べた中から一部の菌についてプラスチックを栄養源にして生きられるかを検証し、菌の増殖を確認した。菅原さんは「海から採取したプラスチックを効率的に分解するシステムを構築したい。研究を応用し、庄内にバイオベンチャー企業を立ち上げたい」と展望した。

菅原さんは土壌細菌に関する先行研究を基に、プラスチックを分解する性質のある海洋微生物がいないか調査した。調べた中から一部の菌についてプラスチックを栄養源にして生きられるかを検証し、菌の増殖を確認した。菅原さんは「海から採取したプラスチックを効率的に分解するシステムを構築したい。研究を応用し、庄内にバイオベンチャー企業を立ち上げたい」と展望した。

先端研と山形大農学部、東北公益文科大、鶴岡工業高等専門学校による実行委員会が開催し11回目。地域スポーツや人口減少に関する発表もあった。内閣府のSDGs未来都市に選ばれている鶴岡市は地域レジタル化戦略の現状を報告した。

（三浦光晴）